

東近江市「ネイチャーポジティブ宣言」

ネイチャーポジティブとは

「ネイチャーポジティブ」は、自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させることとされ、生物多様性の新たな世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」や日本の生物多様性国家戦略においても、2030 年に向けた目標として位置づけられ、世界の新たな潮流となっています。

「ネイチャーポジティブ」という言葉は近年知られるようになってきたものですが、本市では、環境・経済・社会の統合的向上を目指して平成 28 年度に策定した第 2 次東近江市環境基本計画をはじめ、100 年先の森林の姿を見据えた 100 年の森づくりビジョン、本市の原風景を未来につなぐため市内全域を対象とするエコツーリズム推進全体構想などに基づいて様々な事業を展開してきたところで、これらはネイチャーポジティブの考え方と非常に親和性が高いものと考えられます。これまで自然環境を基盤として様々な取組を進めてきた流れをより一層加速化していきたいとの思いで、この度ネイチャーポジティブを宣言することとしました。



小椋市長によるネイチャーポジティブ宣言

令和 7 年 2 月 16 日(日)に能登川コミュニティセンターにおいて、森・里・川・湖のつながりを再構築し、歴史・文化の継承と発展をも視野に入れた、本市ならではの「ネイチャーポジティブ」の実現を目指すことを東近江市長が宣言しました。「ネイチャーポジティブ宣言」は、全国で 200 を超える団体が行っており、宣言団体のうち、企業が約 9 割を占め、自治体として宣言しているのは、全国で 15 例、近畿 2 府 4 県では本市が初となります。【令和 7 年 2 月 16 日時点】



東近江市「ネイチャーポジティブ宣言」

東近江市は、鈴鹿の山々から琵琶湖まで「森・里・川・湖」のつながりがもたらす多様で豊かな自然環境のもと、万葉の時代から綿綿と歴史・文化が継承されてきたまちです。

国際的には、2050年に自然と共生する社会の実現を目指し、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現が目標とされています。この考え方は、人が適切に関わることで保ってきた多様で豊かな自然環境を基盤として、千年を超える歴史と文化が継承されてきた本市の姿そのものがあります。

しかしながら、燃料革命以降、森林資源をはじめとした自然に対する価値観の変化に伴い、人と自然の関わり方が変化してきたことにより、本市のみならず全国で自然環境及び歴史・文化の継承が危ぶまれています。

今こそ、つながりの原点である森林の価値を再認識するとともに、生物多様性のみならずカーボンニュートラルにも資する地域資源の活用を図ることが重要です。これにより、森・里・川・湖のつながりを再構築し、歴史・文化の継承と発展をも視野に入れた、本市ならではの「ネイチャーポジティブ」の実現を目指すことを、ここに宣言します。

令和7年2月16日

東近江市長 小椋正清